

未来はどうなるか誰も知らない

それとも、これからも あの人に
もっと会う機会ができるのだろうか。

あの人と会う回数が増えるにつれ、
その僕の理想像から彼女が遠ざかるか、
それとも、この僕の理想女性を上回る女の人
になるかは、次第に明らかになるだろう。

ただ、今の僕の出来ることは、
彼女と会う偶然を待つことだけなのか。
僕の、今の、彼女への気持ちは、
大変、焼けつくように熱いのだろう。

「僕は、君のありのままの心と体のすべてが好きだ。
君のすべてが好きだ。君を愛している。」

わくわくして見た 映画の、あのシーンを、
僕は 夢見る、夢の実現のため 奔走する。

「君はなぜ僕の視野に出てきた。
君がいなかったら、こんな変てこな気持ちなんか
ならなくていいのに、僕は君がにくい。」

「ただ、大きなあきらめと、かすかな、
君が僕のものになる、可能性を見つめ、
今は、君への気持ちで僕はいっぱいだ。」

これは今この日記を書いている時の今の話。
未来はどうなるか、誰も知らないが。